

# 経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2303号 2016年04月04日（月曜日）

## 《 New York and Tokyo.... big difference 》

アメリカの株式市場で急速に「先行き楽観論」が強まった一方で、日本の市場ではにわか  
に「先行き悲観論」が強まった一週間でした。ニューヨークの株は週末の金曜日にダウ工業  
株30種平均で107.66ドル、0.61%上げて終値は17792.75ドルとなり4  
ヶ月ぶりの高値。過去5年のチャートを見ると同株価指数が急激に過去最高値（終値ベー  
スで2015年5月19日の18,312.39ドル）に接近しようとしているのが分かる。あと500ド  
ル強。マーケットでは「アメリカは今年リセッション入りする」との年初の見方は消滅し  
つつある。より幅の広い株価指標である S&P 500 を見ると、同指数は過去7週間で6週間は  
上げの展開となっている。

対して日本のマーケットでは金曜日に日経平均が600円近く下げて終わった。時間差  
はあるし、重要統計（米雇用統計など）を見ないで終わった東京市場と、それを確認して終  
わったニューヨーク市場を単純には比べられないが、金曜日発表の日銀短観などを見ても  
「彼我の差」を強く感じるこの週末だった。欧州のマーケットの雰囲気は日本に近く、一方  
一部の途上国のそれはアメリカに近い。

-----  
ニューヨーク市場の楽観論は数字で裏打ちされたものだ。一番注目された毎月初発表の  
雇用統計（今回は3月分）は雇用者数の伸びが21万3000人と予想通りの堅調さだっ  
たし、失業率は5.0%（2月は4.9%）に若干上がったものの、これは「労働市場の堅  
調を見て、職探しをした人が増えたため」という側面が強く、見方によっては健全。過去3ヶ  
月の月平均の雇用の増加数は20万9000人と非常にしっかりしている。雇用の増減を  
セクター別で見ると、運輸、製造、鉱業などでは減が見られるが、その他の10前後のセク  
ター（娯楽、建設、小売りなど）では雇用がしっかりと伸びているし、労働賃金は濃淡の差こそ  
あれ例外なく伸びている。

アメリカ経済の強さを示したのは雇用統計だけではなかった。コンファランス・ボード  
の消費者信頼感指数は3月が96.2で、これは2月の94.0（上向き改訂）からさらに上昇し  
た。このところの株価上昇を好感して消費者の楽観論が強まったと見られる。その他の経済  
指標も全般に好調で、ウォール・ストリート・ジャーナルが週末に指標をまとめた記事の  
見出しは「U.S. Economy Showed Broad Strength in March Solid jobs report, factory  
expansion, strong auto sales counter talk of recession」というものだった。

「factory」の部分は ISM の製造業活動指数 (manufacturing activity) 指数を指し、その3月の数字は51.8で2月の49.5から大幅上昇。また米調査会社オートデータによれば、3月の米新車販売台数が前年同月比3.2%増の159万5484台だった。3月としては2001年以来の高い水準だった。原油安でガソリン価格が下がり、特に大型車の販売が伸びた。3月の乗用車の売り上げを年間換算で見ると1710万台ペースと、非常に高い水準となっている。

### 《 more talks on rate hike 》

俄に騒がしくなったのは、アメリカの「利上げ戦線」だ。マーケットの見方とFOMCの見方が「年2回」でほぼマージしたところに出てきたこの一連の強気指標。加えてのアメリカ市場のVIX指数が13.10にまで下がった「世界的な市場の安定」の中で、「早期、早ければ4月にも次の利上げもとの見方が出てきた。「今年の利上げ回数が4回でもおかしくない」という意見も出ている。一々名前を挙げないが、FOMCの委員も含めて再びアメリカでの「利上げ論議」が「上げ加速」の方向で騒がしくなっている。

アメリカではゆるやかな賃金上昇の中で、インフレ率もFRBの目標の2%に接近している。「利上げ論議」が高まるのは自然と思われるが、意外と最高責任者のイエレン議長は慎重だ。イエレン議長が最後に大きな会合で喋ったのは29日。だから雇用統計が出る前だが、既に「早期利上げ論」が地方連邦準備銀行の総裁らの口から出ていた時。彼女は焦点になっている追加利上げについて「海外経済のリスクなどを考慮して慎重に進める」と強調した。あまり前回FOMCの時と変わらない意見だった。FRB内にはインフレを不安視して早期利上げを求める声もあるがイエレン氏は、「物価上昇に持続力があると言いがたい」と述べ、注意深く政策判断する姿勢を崩さなかった。

今年1月、3月のFOMCは追加利上げを見送ってきた。年内の利上げペースも、当初想定した4回から2回に引き下げていた。議長は先行きについて「海外経済がリスクとなり続ける」と指摘。金融環境は落ち着きを取り戻しているものの、中国経済の不安定さなどが引き続き市場の混乱要因になりうるとした。

今のマーケットでやや不思議なのは、「アメリカでの利上げ論議の盛り上がり」にも関わらず、ドルが弱いこと。例えば今朝この文章を書いている時点でのドル・円相場は111円半、ユーロ・ドルは1.14ドルに近い。もしかしたらこのドル軟調はイエレン議長のスタンスにさや寄せしたものかも知れない。マーケットではそうした見方が強い。いずれにせよ米金利見通しとドルのスタンディングは今ちょっと歪んでいる。

イエレン議長の一連の発言の中で筆者が気になったのは、「物価指標は短期的には改善傾向にあるが、持続力があると判断するのは時期尚早だ」と述べている点。議長は具体的に「原油価格が依然として不安定」であることなどを挙げている。最近のイランの増産方針などを考えると議長の見方も理解できるし、実際に世界の原油相場の動きはとても安定したとは言いきれない。しかし一時的にせよ世界の原油相場が落ち着きを取り戻し、場合によっては

基調は上げに入ったかに見える今の局面では、アメリカのマーケットはそれを好感し、かつ資源に頼る途上国のマーケットを元気づけている。問題はその持続力だ。

- - - - -

今週の主な予定は以下の通りだが、日本の市場では円高・株安が進行中で安倍首相は伊勢志摩サミットを控えて自国経済と政策の立て直しに取り組む必要に迫られている。予算の執行加速化だけではなかなか事は運びそうもない。

04月04日（月曜日）	3月日銀短観の物価見通し 3月マネタリーベース オーストラリア2月小売売上高 オーストラリア2月住宅着工 ユーロ圏2月失業率 米2月製造業受注 休場=中国、香港、台湾
04月05日（火曜日）	2月毎月勤労統計 オーストラリア2月貿易収支 ユーロ圏2月小売売上高 米2月貿易収支 米3月ISM非製造業景況感指数 休場=台湾
04月06日（水曜日）	3月輸入車販売台数 3月新車販売ランキング 2月景気動向指数 4日時点の給油所の石油製品価格 中国財新の3月非製造業PMI 米FOMC議事要旨(3/15~16分 27:00) 休場=タイ
04月07日（木曜日）	日銀支店長会議 日銀の地域経済報告 ECB理事会の議事要旨 米新規失業保険申請件数
04月08日（金曜日）	米2月消費者信用残高 2月国際収支 3月上中旬貿易統計 3月対外・対内証券売買契約 3月企業倒産

3月消費動向調査

3月景気ウォッチャー調査

米2月卸売売上高

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。日本の広い地域で桜が満開になり、それを楽しんだ方も多かったのではないかと思います。私も皇居回りの桜は土曜日の午前中に全部見ました。「三分咲きから翌日には突然満開になる。桜とは不思議な植物だ」と思いながら。満開が終わるとちょっと寂しくなるのですが、今後も例えば乾門の前の枝垂れとか、その後は清水谷公園の八重桜とか楽しみは続くし、東北、北海道に行けば一ヶ月先でも桜は楽しめます。

- - - - -

土曜日の午後からは諏訪に。「御柱祭」を見るため、祭りのハイライトがあった日曜日は全国的には雨がちのところが多かったようですが、私がいた諏訪は曇りの天気、時々晴れ間も。見ながら「やはり変わったお祭りだな」と思いました。子供の頃から参加し、そして見ているのにそう思う。大体十二支の寅と申の年だけに開催される、つまり6年に一回というのが珍しいし、場合によっては死者が出てもおかしくない危険度満載の側面を持つのも珍しいし、祭りの期間が長いのも他に例が無い。

祭りの正式な名前は「式年造営御柱大祭」と言って、全国の神社にある「式年造営」の一種なのですが、主人公が柱で、それがまたこれだけ規模の大きいものは他に例が無い。今回は出雲出身の大学時代からの友人である土江君を誘って諏訪に来て、高校の同級生の丸茂君のお世話になったのですが、なぜ出雲出身の土江君を誘ったかという、そもそも諏訪の大社は出雲との関係が深いと考えられている。私の祖父もそう言っていた。なので、彼に祭りを見てもらって出雲の祭りとの比較をしてもらおうと思ったからです。

そしたら意外なことに「出雲にはこんな祭りはない。しかし生き生きした良い祭りで、感動した。記憶に残る」との一言。そうなんだ。そう言えば「出雲で祭り」というニュースはあまり聞かない。その発見が私には新鮮だった。祭りのハイライトは二つ。「木落とし」と「川越え」です。諏訪大社は上社と下社からなり、上社には前宮と本宮が、下社には春宮と秋宮がある。「木落とし」はその4つの神社の各4本の御柱、合計16本で実施され、「川越え」は上社の二つのお宮の8本についてある。いずれも「お清め」の意味合いがあると考えられる。かつこうした危険な難行を通過した木には、やはり神が宿るとも考えられる。

そもそも御柱とは神社の回りに配置される四本の巨大な柱です。一乃柱から四乃柱まで各宮にあり、それぞれ「一」が一番大きい。それを各柱1000人以上の氏子が10数キロを曳行し、急坂を落とし、高い土手から川に木を落とし、そして引き上げる。「急坂を落とす」のを「木落とし」といい、「高い土手から川に木を落とし、そして引き上げる」を「川越え」という。とにかく木はでかくて重い。今回は長さが18メートル、総重量は10トンを超えると聞いた。「四乃柱」から徐々に重くなって、一番重いのが上社の場合は「本宮一乃柱」

で、参加地区はどこもこの「本一」を取りたい。今年は実に96年ぶりに私の友人が多くいる地区が取って、その曳行長が高校の同級生の宮下君。

この2日、3日の週末に行われ、4日にも行われるのは上社の「山出し」。これは木を切った（今回は適当な木がなく、他から運び込んだと聞いた）山奥から里まで木を曳行することを指し、連休に「里引き」が行われる。これは里で木を引き、神社の所定の位置に立てるまで。ハイライトの「木落とし」と「川越え」は3日と4日の予定で、3日に私が見たのは本1、前1、本2、前2、本3の木落としと、本1、前1、本2の川越え。むろん「木落とし」と「川越え」は1キロ弱離れた場所で行われているので、全部を完全に見たわけではないのですが、できる限り見たし、各所にパブリックビューポイントがあって同時進行のものもチェックできる。でも「変わったな」と思いました。私が子供の頃は「色」が無かった。しかし今の御柱祭りは実にカラフルです。それはナイス。そしてエンタメ化している。それは賛成できることと、うーんちょっとと思うことも。一つははっきりしているのは、同じ曳行でも実に個性が出てきたこと。これは各地区の曳行長の個性かも知れない。

「木落とし」は茅野駅から歩いて15分ほどの「木落とし公園」で行われる。全長は40メートル弱、傾斜角度27度。きついですよ。そこから木を落とす。大勢の人を乗せて。曳行中に極めて危険な箇所の一つの山で、特に下社の「木落とし」は危険。木が容易に転がるから。でも昔から見ると祭りは変わった。木の落とし方の手順にしても、川越えの仕方にしても「随分差が出来た」と思いました。私は性格的には派手な方が好きですが、前1の川越えなど、今までに見られなかった数の人が川に飛び込んでいた。暖かかったせい？ これは面白かった。あと演出もなかなか凝った地区が多かった。歌まで作っていたりして。

上社の御柱8本と下社の御柱8本の曳行で一番違うのは「メドデコ」の有無です。メドデコとは、大木から突き出した部分です。御柱の前部と後部に穴をあけて差し込み、V字形に取り付ける木の柱を指す。漢字を当てると「目処梃子（めどでこ）」。それぞれのメドデコに氏子たちが鈴なりに乗って氣勢を上げ、おんべを振りながら進む姿は上社側だけの勇壮な光景ですが、起源については諸説あり、上社の曳行路がまだ舗装されていなかった時代、ぬかるんだ土から脱出するために付けたとも。メドデコを左右に振ると、大勢の人が引いているので前に進める。明治期ごろに導入されたらしい。

4日も三本の「木落とし」と五本の「川越え」が行われるが、諏訪は地方としては休みです。月曜日まで祭り一色。今は上社の神事が進行中。次に下社のそれが行われて、全部が終わるのは初夏かな。実に長いお祭りです。

それでは皆様には良い一週間をお過ごし下さい。

*《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的*

としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》